

# みかん親培の礎を築いた有田みかんシステム

# 日本農業遺産也

有田市、湯浅町、広川町、有田川町の4市町にまたがり、令和8年2月に日本農業遺産として認定された「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」は、450年前に伊藤孫右衛門がこの地に「小みかん」を導入して始まりました。本システムの保全、次世代への継承、「有田みかん」ブランドの維持・発展に向け、認定地域内への周知・啓発を図るセミナーを開催します。

生産者をはじめ、多くの方のご参加をお待ちしています。

日時 令和6年2月7日(水)13:30~(受付 13:00~)

申込不要

会場

きびドーム

(有田川町下津野2021)

(お車でお越しの際はできるだけ乗り合わせのうえお越しください。)

### 講演内容

#### 講演1

# 農業遺産制度の活用事例と有田みかん地域への期待

東京大学大学院農学生命科学研究科 八木信行 教授

# 講演2

有田みかんブランドの維持・発展に向けて

①温州みかんの新しい高品質果実生産技術 ~シールディング・マルチ栽培(NARO S.マルチ)~

> 農研機構 果樹茶業研究部門 カンキツ品種育成・生産グループ 岩崎光徳 上級研究員

②温州みかん新品種「あおさん」の紹介

和歌山県果樹試験場 宮井良介 主査研究員

主催:有田みかん地域農業遺産推進協議会、ブランドありだ果樹産地協議会